

平成28年9月27日

風は東から

To be continued...
to be continued...

選手権二次予選は初戦敗退...
地区トップ最終戦では有終の美を飾る!!

選手権二次予選は、致命的なミス連発で初戦撃沈 ↓

これが現実で、今の力であることを認め、次の大会に活かす !!

9月10日(土)、東高の文化祭初日に選手権二次予選一回戦VS都立野津田高校が駒沢第二競技場で行われました。昨年は、選手権二次予選の初戦で学習院高校に力を出し切れず、後半に逆転を許し敗れましたが、今年はその時の反省を活かし、二次予選進出後もTR&TRMを行いながら、対戦相手の野津田高校対策というよりは、高校サッカーの集大成として三年間培ってきた「東高のサッカー」を貫き通して闘えるよう順調に準備を進め、自信を持って今大会に臨むことができました。しかし、残念ながら結果は1-6と撃沈…。今年の五月に行われた、インターハイ都大会での早実戦同様、厳しい現実を突きつけられた形となりました。

<流れを掴めず、ミスから失点を重ねる…>

キックオフ直後にビッグチャンスを迎えましたがゴールにならず、逆にイージーミスから先制点を奪われます。直ぐに、同点に追い付きましたが、その後一進一退の攻防を繰り返します。前半は東高に決定的なチャンス数が多かっただけに、ここで一本でも決まっていればゲームの展開も変わっていたはず。全てはタラレバであります。

後半に入ると、相手チームのエースが満を持して登場します!!この日、駒沢第二を一番沸かした選手かもしれません。早速、ファーストプレーでグラウンドをドリブルで横断しペナルティエリアで切り替えしDFをかわすと、GKと一対一になり角度のないところからここしか空いていないコースにシュートを決められリードを許します。ここから野津田の勢いが俄然増し、グイグイ東高が押し込まれ始めます。その勢いに負けるかのように信じられない致命的な(試合中あるかないかのような)ミスを連発し失点を重ねます。東高も最後まで力を振り絞って一点を奪いに果敢に攻めますが、最後まで野津田守備陣の集中は切れずこのままタイムアップ。今年度の選手権は、自信を持って臨みましたが、昨年同様二次予選初戦敗退という結果で終わりました。



<地区トップリーグ最終戦で勝利!! 有終の美を飾る!!>

選手権二次予選敗退後の翌週に、**地区トップリーグ**最終戦 **VS 墨田川**が行われました。実質、三年生にとっては、高校生活最後の公式戦となります。相手チームの墨田川高校は、今年は、三年生が全員選手権まで全員残りサッカーに賭けてきました。そのため、三年生が一次予選敗退後も一ヶ月間**TR**を続けてきました。気合十分です!!不思議なもので、東高の三年生も選手権後の今週は今までにないくらい集中して**TR**に取り組んできました。ゴール地点が見えると人間は強いですね。

この日は、お互いにとって高校サッカー最終戦ということもあり、多くの保護者や友だちが東高グラウンドに観戦に訪れ、舞台は整いました。因みに、墨田川高校は三十年前に卒業した私の母校であり、遠征帰りにいつも寄る「**味の横綱**」の近所にあります。これも何か運命を感じました。

最終戦、立ち上がりから東高の攻撃の勢いが勝り、最初からゴールの予感がしました。すると前半早々に怪我でこの三か月間リハビリに明け暮れていたエースが技ありの先制点を決めて優位に立ちました。その後もチャンスを作るもののなかなか追加点は奪えず、時折、相手のカウンターを受けピンチを作ります。まさに、今年の東高を象徴する展開となりました。後半80分に、やっとPKを得て、それをキャプテンが三年間の思いを込めて蹴り込み、最後はアディショナルタイムで二年生コンビがゴールを奪いタイムアップ。結局、最終戦を**3-0**で勝利し、**Bブロック三位**を決めました。高校サッカー三年間の最後の公式戦は**有終の美**で飾りました。



<地区トップリーグ最終戦は**3-0**で勝利!! 高校サッカーの締め括りを**有終の美**で飾る!!>

<After the Game>

三年生にとっての公式戦はこれで全て終了しました。三年間応援ありがとうございました。

子どもたちが高校生活の三年間を全力で大好きなサッカーに打ち込めたのは、保護者の方を始め多くの方々のサポートやご理解、ご協力、応援があったからこそ、現在の子どもたちの逞しく成長した姿があります。スタッフ一同、心から**感謝**しております。

ここからは、勉強とサッカーを両立して少し遠回りした分、自分たちの進路実現に向けての準備の時間を取り、全力で取り組んで欲しいと思います。高校サッカーの公式戦は終了しましたが、高校生活は残り半年（実質のところ三ヶ月ですが）、まだまだ続きます。最後まで東高サッカー部員として自覚と誇りを持ち続けて生活し、三月の卒業式を無事に迎えられることを願っています。

さて、自信を持って臨んだ選手権でしたが、本番で致命的なミス連発により勝負には敗れました。これが現実であり、東高の今の実力であることを認め、受け入れなくてはなりません。しかし、子どもたちは最後まで「東高サッカー」を貫き通し生まれたミスであり結果です。今年の選手権では、三年間培ってきた「**F-Higashi style**」で旋風は起こせませんでした。新たな取り組みに対しチャレンジしてきたことに、子どもたちには胸を張って欲しいと思います。

P.S 三年生の保護者のみなさま お子さんは出場することはありませんが、今後とも府中東高校サッカー部の応援を引き続き宜しく願いいたします。今までありがとうございました。